



学びの広場

この度、浜辺の歌音楽館1階ホールに「グッズ販売コーナー」と「スロット展示コーナー」を新設しました。グッズは、音楽館がデザインされた一筆箋、ポストカード、ミニハンカチ、クリアファイルを扱っています。また、展示コーナーでは、春を題材とした成田為三作品等を紹介しています。今後、季節や時期にあったテーマのものを展示し紹介していきます。新型コロナウイルス対策により、5月6日（水）まで休館となっております。以降の詳細については、お問合せください。

浜辺の歌音楽館からのお知らせ
 図 浜辺の歌音楽館 ☎72-3259

郷土出身の作曲家、成田為三先生の作品を中心に、色々な曲を楽しく歌い活動しています。素敵なメロディーを歌い継いでいきましょう。
 対象 小学校1年生～高校3年生
 練習日時 毎週土曜日 9時～12時
 5月16日（土）開始予定
 練習場所 森吉公民館
 参加費 月1000円（後援会費）

**浜辺の歌音楽館
少年少女合唱団員募集**
 図 森吉公民館 ☎72-3259

最先端技術「5G」をやさしく解説
 岡雅宣著

▽いちばんやさしい5Gの教本（藤岡雅宣著）
 図 阿仁図書室 ☎82-2220

▽金足農業、燃ゆ（仲村計著）
 大ブームを巻き起こした金農ナイン。さかねえ（気性が荒い）ナインの素顔を描いた涙と笑いのノンフィクション

図 合川図書室 ☎78-2114
 布遊び（小関鈴子著）
 人気のパッチワークパターン集

図 森吉図書室 ☎72-3192
 色と形のパッチワークパターンで



▽としかんライオン（ミシェル・ヌードセン著）
 静かな図書館にライオンが現れた！
 静かな図書館にライオンが現れた！
 もし自分の親が認知症になったら…
 くごもの本

図 鷹巣図書室 ☎62-1707
 図 鷹巣図書室 ☎62-1707

今月のおすすめの本を紹介



- 公民館活動
- 生涯学習
- 文化振興
- 学校
- スポーツ



学びの広場

北秋田市教育委員会

親子で楽しむふれあい遊び

～ねまーる広場「きらきらタイム」～

親子のふれあい遊びを楽しむ「きらきらタイム」が3月18日にねまーる広場で行われ、6組の親子が参加しました。

きらきらタイムは、絵本の読み聞かせや身体を使った遊びなどとおして、子ども同士のふれあいやお母さんたちのコミュニケーションの場を作るために開催しています。

この日は、音楽に合わせて歌を歌ったり、身体を動かしたりするなど、親子のふれあい遊びを楽しみ



▲リズム遊びを楽しむ子どもたち

ました。参加した子どもたちには、手作りおもちゃがプレゼントされ、嬉しそうに遊んでいました。

七日市地区で春彼岸行事「仏流し」を再現

～七日市公民館「わら細工講座」が企画～

七日市公民館の主催で、約50年前まで行われていた春彼岸行事の「仏流し」を児童や地域住民20人の参加のもと3月24日に行いました。

この行事は、七日市品類地区で行われていたとされ、彼岸明けに各家庭で作った下部が円形のわら細工を、先祖供養のため小猿部川に火をつけ流したとされます。

「わら細工講座」の講師をしている長岐一男さんと宮腰進さんが、わら細工9基を製作。参加した児



▲わら細工に火をつけ川に流す参加者たち

童は、初めて体験した行事を新鮮に感じ、地域の人たちは懐かしい思いで「仏流し」を見守りました。

公民館に新しい館長が就任しました 2年間よろしくお祈いします！

任期満了に伴い、各地区公民館の非常勤館長が新たに任命されました。新館長の任期は、令和2年4月1日から令和4年3月31日までの2年間で、各公民館の講座や行事等を企画します。

公民館へのご要望などがありましたら、各地区の公民館までお寄せください。

合川公民館	（☎78-2114）	佐藤 隆男	森吉公民館	（☎72-3259）	庄司 邦昭
阿仁公民館	（☎82-2220）	渡辺 幸子	坊沢公民館	（☎67-2529）	佐藤 朗
綴子公民館	（☎62-4729）	佐藤 要	栄公民館	（☎62-0744）	亀山 祐悦
沢口公民館	（☎62-4829）	佐藤 吉輝	前田公民館	（☎84-8770）	柴田 榮則
大阿仁公民館	（☎84-2311）	斎藤 英昭			

温故知新

Vol.1

鷹巣村の草創とその歩みから

昭和60年代に刊行された『鷹巣町史別巻 資料編』の諸資料は、今の私たちに何かを語りかけてくれる。



鷹巣町の前身「鷹巣村」が常陸（現茨城県）の大名であった大館城代小場氏の開発による新田村であったことから、鷹巣村は難題に直面することがあっても、工夫と創意で対応した。

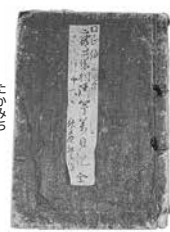
耕地の大半は、洪水のたびに荒れ、強固な堤と用水提供の関の整備は、村民の重い負担であった。二代城代小場義易の時、家臣小山左内勝茂を指揮官に、後に村初代肝煎となる齋藤伊勢らの尽力で、鷹巣堤が完工したのは、慶安元年

（1646年）であった。房澤村支郷（枝郷とも）とされた。天和三年（1683年）に独立村となり、親郷寄郷制が実施されると、綴子村の寄郷となる。

村三代肝煎齋藤兵部（伊勢の孫）の著した「御竿萬日記」には、検地に来ていた藩の役人に、房澤村の肝煎長崎兵後助（長崎とも。一般には兵庫助。後に兵助と改名。五義民訴訟の関係者）が、鷹巣村支郷の件の記載を要望。拒否されたことを記している。

鷹巣村には、山や草地も少なく、草刈地や薪炭山を脇神村や綴子村の糠沢山に入会を認めてもらわねばならず、それらの交渉に城代小場氏（三代以降は佐竹西家を称す）の伝を得るなどの画策をしていた。寛文年間（1661～72）には定期市を開くなど、資源に恵まれない村の歩みは、私たちへの一つの教示になっている。

※房澤村は後に坊沢と改字する。



永井 高道
（元北秋田市教育委員）